

もの言う牧師のエッセー 第273話

「メガサプライヤー」

世界自動車市場の3割を握る日本自動車産業に激変が起こりつつある。2016年の時点で、トヨタ自動車は自動運転などの安全装備を16車種に搭載しているが、このシステムに欠かせないのがカメラやレーザーレーダーを組み合わせたセンサーモジュールだ。トヨタはこの部品をトヨタ系最大の部品メーカー・デンソーではなく自動車部品大手の独コンチネンタルから調達し、業界に衝撃が走った。

日本の伝統である系列取引からの変化を予兆させる出来事だが、すでに同社はマツダ、スズキ、富士重工業など中堅メーカーの拠点にも営業所設置、シェア拡大を加速する。さらには世界最大の部品メーカー・独ボッシュもシステムエンジニアリング部門を日本に新設。トランスミッションで名高い独ZFも横浜に進出し規模拡大に余念がない。

なぜドイツの「メガサプライヤー」の攻勢は続くのか。それはずばり完成車メーカーと部品メーカーの関係の変化にある。かつては完成車メーカーが新規の部品の開発要件や図面を提示し、“下請け”である部品メーカーがそれに従って開発・生産を手掛けていたが、今日では完成車メーカーの開発領域は環境技術や自動運転など、かつてないほど広がっており、全てを自前で開発するのは難しく、加えて多くの部品で電子化が進み、機械的プレゼンスが薄れ、そのため汎用的部品については部品メーカーに任せたいのが本音という。モルガン・スタンレーMUFJ証券の垣内真司氏は、「部品メーカーに要求されるのは、完成車メーカーの車種開発を先読みして、単品ではなくシステムとして部品を提案する力」と言う。なるほど！

グーグルなどの自動運転車やスマートカーが話題になる現在。ふんぞり返る自動車メーカーと指示待ち部品メーカーの構図が崩れるかも知れない。実は聖書には供給する側とされる側が多く登場する。

「あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、

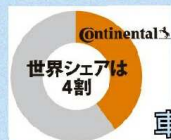
それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。」 第二コリント人への手紙9章11節、

とあるが、これは貧しい片田舎のマケドニヤ教会の人々が、苦境に陥った、ゴスペルの“本家”であるエルサレム教会に支援を供給し驚かせた一コマである。紀元55年頃、すでにゴスペルが諸外国へと拡散する中、そのサプライヤーが本社から支社へとシフトし、やがて本社をも凌ぐ勢力となった。誰でもキリストを心から信じる者は力を得、人々のニーズを先読みし、メガサプライヤーとなれる。

特集

トヨタ、グーグルも頼る 自動運転の覇者 コンチネンタル

(写真=nadla/Getty Images)



車載用レーダーの世界シェア